

令和4年度

市政モニターアンケート調査結果  
【動物の愛護及び管理について】



長 崎 市  
動物愛護管理センター

## 1. 調査の目的

本年7月1日に人と動物の共生社会を推進することを目的に「長崎市動物の愛護及び管理に関する条例」が施行されました。今後も、長崎市の動物愛護管理行政の更なる推進を図るとともに、災害時のペットとの同行避難の実施に向け、市民の皆さまの意識を把握するため、アンケートを実施いたしました。

## 2. 調査の概要

調査期間：令和4年7月27日 ～ 令和4年8月12日

送付数：276人（郵送モニター 202人 インターネットモニター 74人）

回答率：92.4%（255人）

（郵送モニター 185人 インターネットモニター 70人）

## 3. 調査結果

### 【動物の愛護及び管理について】

ペットの中で犬や猫を飼っている方が90%以上を占めていますが、所有者明示をしている飼い主は半数以下でした。災害時等に迷子とならないよう、迷子札やマイクロチップ等の装着に努めるよう周知啓発を行う必要があることが分かりました。

また、地域猫活動について、「知っている」または「聞いたことはあるが詳しくは知らない」と回答した人は75%以上であり、必要性を認識している人は約9割を占めていました。今後は活動の内容や当該活動が猫の引取り数や殺処分数の減少に資する取組みであることについて、一層、周知啓発に努めていきたいと思えます。

さらに、長崎市の動物愛護管理行政の事業について、7月1日施行の「動物の愛護及び管理に関する条例」については、「知っている」または「聞いたことがある」と回答した人は約半数でした。「知っている」だけでは約15%であることから、今後は様々な手法で、積極的に周知を行う必要があると改めて分かりました。

### 【災害時のペットとの避難について】

ペットを飼育されている方のうち、70%以上の方は、ペットを連れて避難するときのために、「ペットの健康管理」や「避難用具の準備」など、日頃から何らかの準備を行っていました。

ペットを連れて避難をしたいと考えている方で、「特に準備はしていない」と回答された方もいらっしゃいましたので、飼い主には、いざという時のための日頃からの備えの必要性について、周知する必要があることが分かりました。

また、避難所にペットを連れていくことに対して、飼い主は「連れていけない

(十分なスペースがない、トラブルになる、動物アレルギーの人がいる等)」という回答の方が「連れていきたい」よりも多いことが分かりました。飼い主でない方からは、連れてきてもよいという意見が多くありましたが、ペット用のスペースやしつけ、ふん尿の管理等を望む意見が多いことが分かりました。

#### 4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても100パーセントに合致しない場合があります。

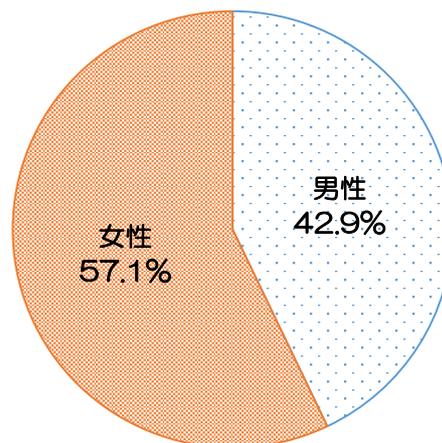
また、複数回答可とした設問においては、合計が100パーセントを上回る場合があります。

なお、回答者数の異なる問については、回答者の数を「回答者数=〇〇人」で表現しています。

問1 あなたの性別をお答えください。

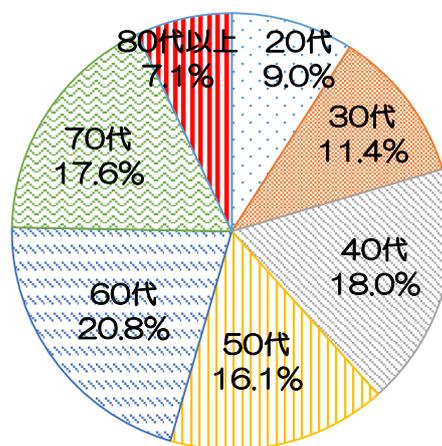
選択肢	回答者数	割合
男性	109人	42.9%
女性	145人	57.1%
合計	254人	100.0%

(無回答1人)



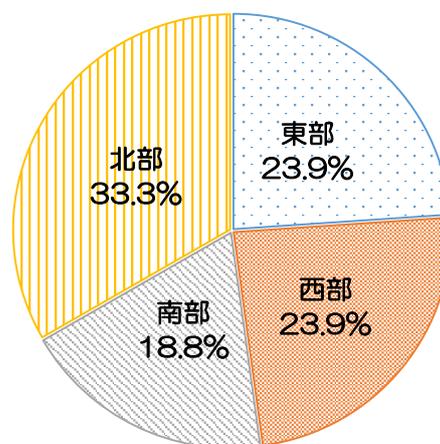
問2 あなたの年齢を選択してください。

選択肢	回答者数	割合
20代	23人	9.0%
30代	29人	11.4%
40代	46人	18.0%
50代	41人	16.1%
60代	53人	20.8%
70代	45人	17.6%
80代以上	18人	7.1%
合計	255人	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	61人	23.9%
西部	61人	23.9%
南部	48人	18.8%
北部	85人	33.3%
合計	255人	100.0%

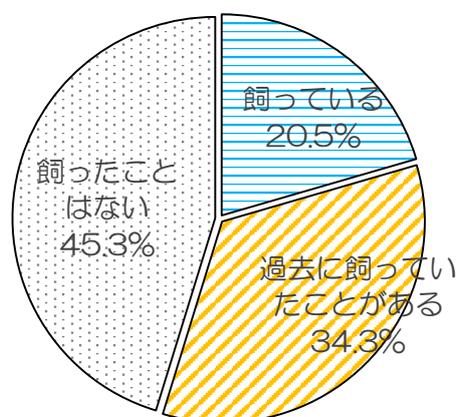


※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

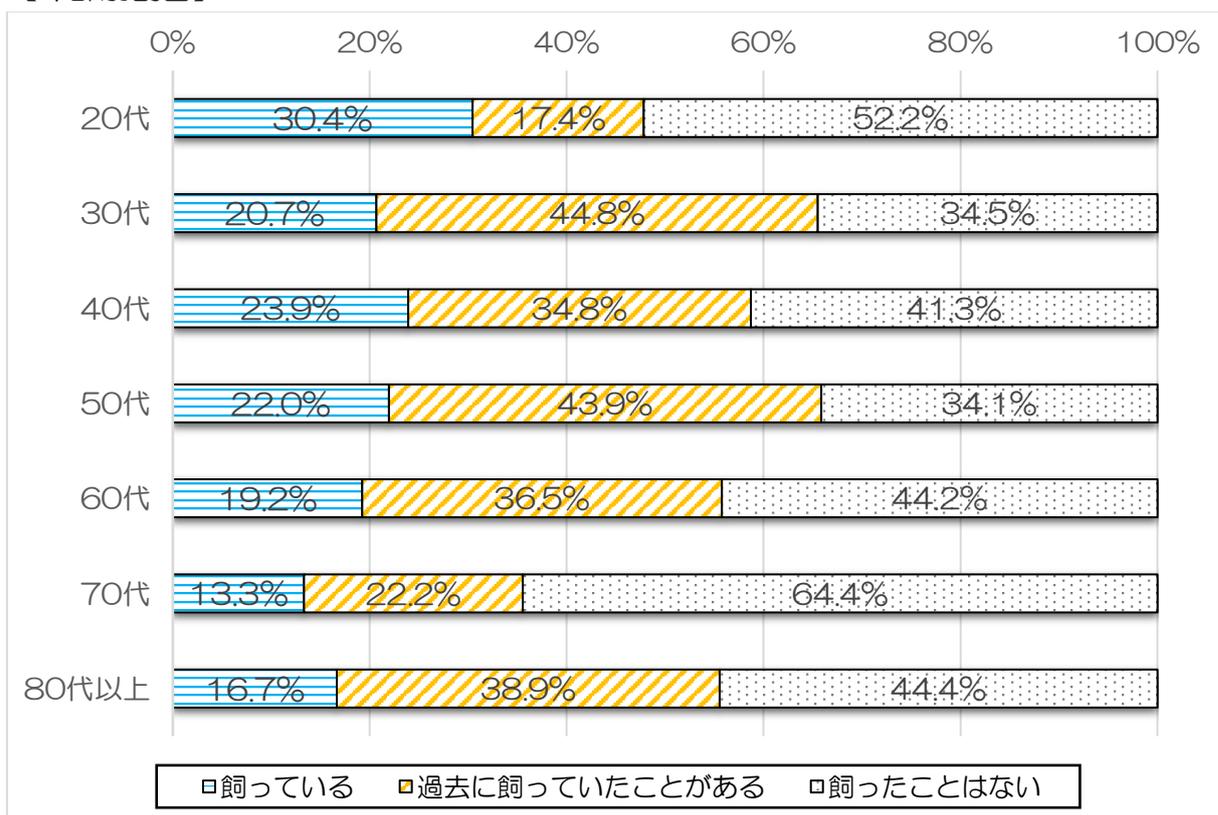
## 【動物の愛護及び管理について】

問9 ペットを飼っていますか。(当てはまるものを1つ回答)

選択肢	回答者数	割合
飼っている	52	20.5%
過去に飼っていたことがある	87	34.3%
飼ったことはない	115	45.3%
合計	254	100.0%



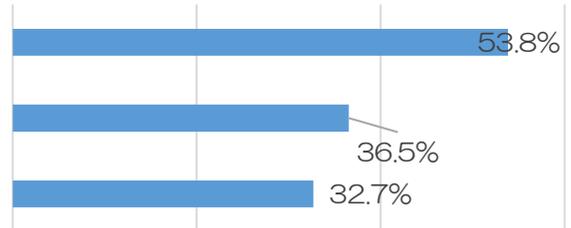
### 【年齢別割合】



全体の半数以上が「ペットを飼っている」または「飼っていたことがある人」であり、中でも30代や50代でその傾向が高く、70代ではその傾向が低いことが分かりました。

問10 「問9」で「飼っている」と回答したかたに質問です。飼っているペットの種類は何ですか。(複数回答可)

選択肢	回答者数	割合
犬	28人	53.8%
猫	19人	36.5%
その他	17人	32.7%



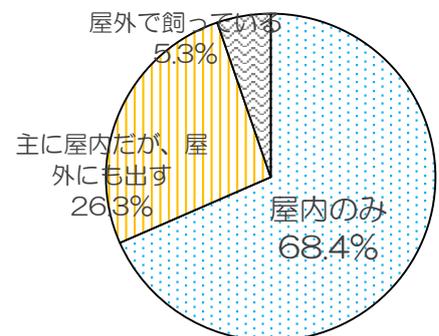
(回答者数=52人)

※ 「その他」の回答

- ・ウサギ
- ・インコ
- ・熱帯魚            など

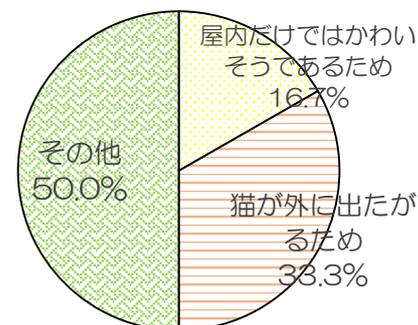
問11 「問10」で「猫」と回答したかたに質問です。どのように飼っていますか。(当てはまるものを1つ回答)

選択肢	回答者数	割合
屋内のみ	13人	68.4%
主に屋内だが、屋外にも出す。	5人	26.3%
屋外で飼っている	1人	5.3%
合計	19人	100.0%



問 12 「問 11」で「主に屋内で飼っているが、屋外にも出す」もしくは「屋外で飼っている」と回答したかたに質問です。屋内のみで飼っていない理由は何ですか。（複数回答可）

選択肢	回答者数	割合
屋内だけではかわいそうであるため	1人	16.7%
猫が外に出たがるため	2人	33.3%
その他	3人	50.0%



（回答者数＝6人）※複数回答なし

※ 「その他」の意見

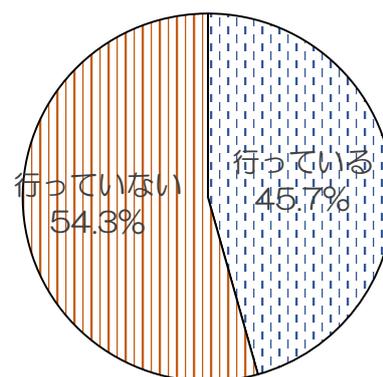
- ・孫が猫アレルギーのため
- ・元々外猫でたまに外に出る
- ・自然に触れるために外に出している（自宅の庭から外へは行かない） など

ペットを飼っているかたの中で半数以上が犬、約3分の1が猫を飼っていることが分かりました。また、猫の飼い方については、約7割のかたが「屋内のみ」であり、「屋外で飼っている」はごくわずかであることが分かりました。

問 13 「問 10」で「犬」もしくは「猫」と回答したかたに質問です。

所有者明示（飼い主の氏名や連絡先が分かるもの等を装着）を行っていますか。（当てはまるものを1つ回答）

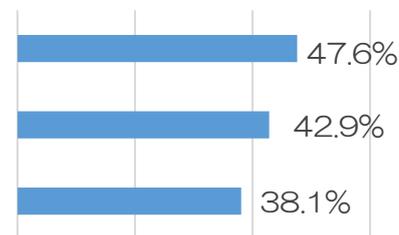
選択肢	回答者数	割合
行っている	21人	45.7%
行っていない	25人	54.3%
合計	46人	100.0%



（無回答 1人 有効回答数 46人）

問14 「問13」で「行っている」と回答したかたに質問です。所有者明示をどのように行っていますか。(複数回答可)

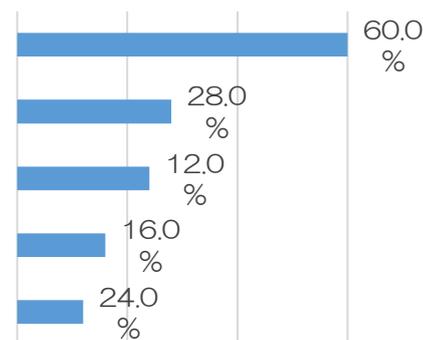
選択肢	回答者数	割合
鑑札・狂犬病予防注射済票の装着	10人	47.6%
マイクロチップの装着	9人	42.9%
迷子札や飼い主の連絡先を首輪等の装着	8人	38.1%



(回答者数=21人 有効回答数27)

問15 「問13」で「行っていない」と回答したかたに質問です。所有者明示を行っていない理由は何ですか。(複数回答可)

選択肢	回答者数	割合
室内飼いであり、不要であるため	15人	60.0%
ペットが嫌がるため	7人	28.0%
その他	6人	24.0%
マイクロチップの装着に抵抗があるため	4人	16.0%
引っかかってしまって危ないため	3人	12.0%



(回答者数=25人 有効回答数35)

※ 「その他」の意見

- ・その時は義務ではなかった
  - ・猫には鑑札等がなく、首輪は重くならないか心配である
  - ・自宅に庭でつないでいるため、不要と思う
- など

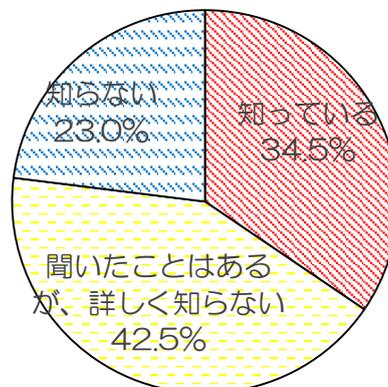
所有者明示をしている飼い主が半数以下であり、その方法は狂犬病予防法で定められている「鑑札・狂犬病予防注射済票の装着」が一番多いことが分かりました。

また、半数以上いる所有者明示をしていない飼い主について、その理由が「室内飼いであり、不要であるため」という意見が半数以上であることが分かりました。

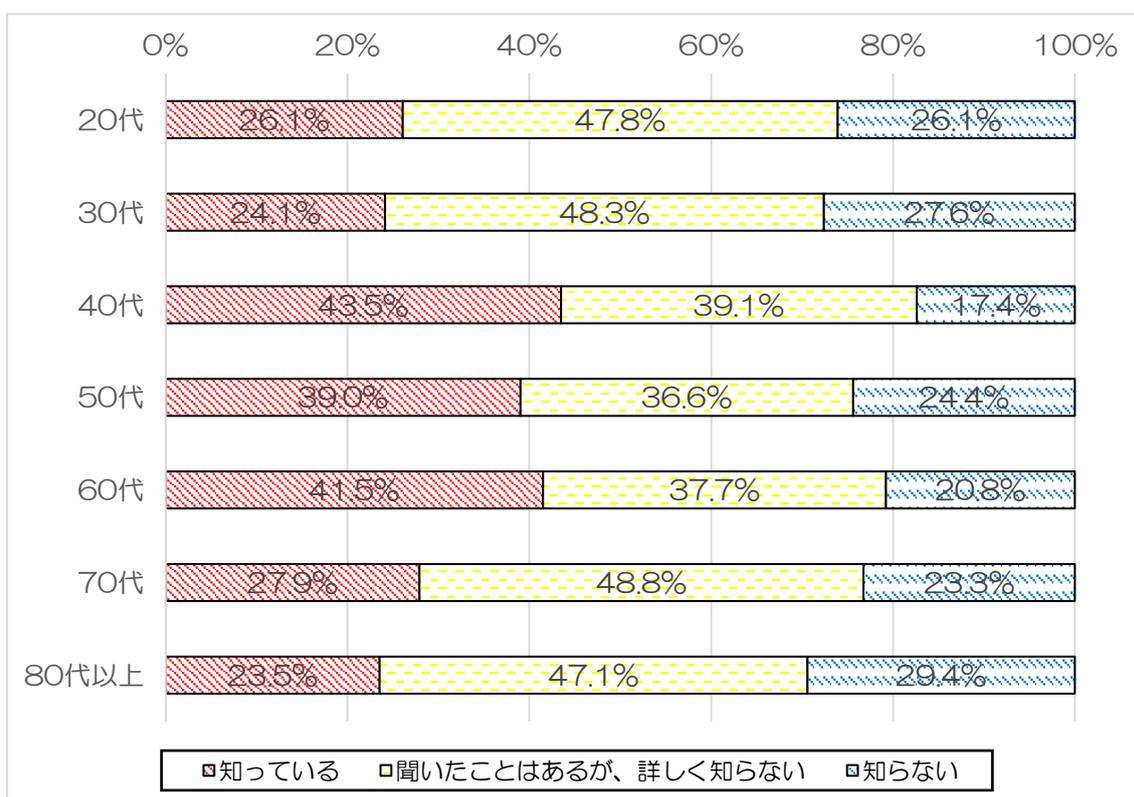
問 16 地域猫活動（※）を知っていますか。（当てはまるものを1つ回答）

※ 地域住民の十分な理解のもと、野良猫を管理（不妊去勢手術、適切な餌やり、ふん尿対策など）しながら頭数を減らすことで、ふん尿や鳴き声などの問題解決を目指す活動のこと。

選択肢	回答者数	割合
知っている	87	34.5%
聞いたことはあるが、詳しく知らない	107	42.5%
知らない	58	23.0%
合計	252	100.0%



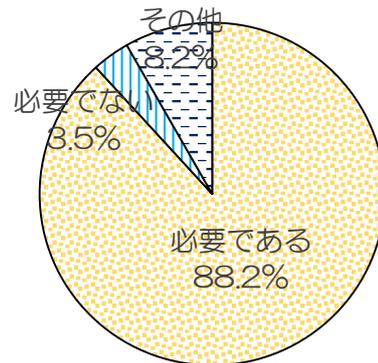
【年齢別割合】



3分の2以上の方が地域猫の存在を知っていることが分かりました。また、どの年代でも同様の傾向が見られ、中でも40代では80%以上の方が知っていることが分かりました。

問 17 地域猫活動について、どう考えますか。(当てはまるものを1つ回答)

	回答者数	割合
必要である	225	88.2%
必要でない	9	3.5%
その他	21	8.2%
合計	252	100.0%



※ 「その他」の意見

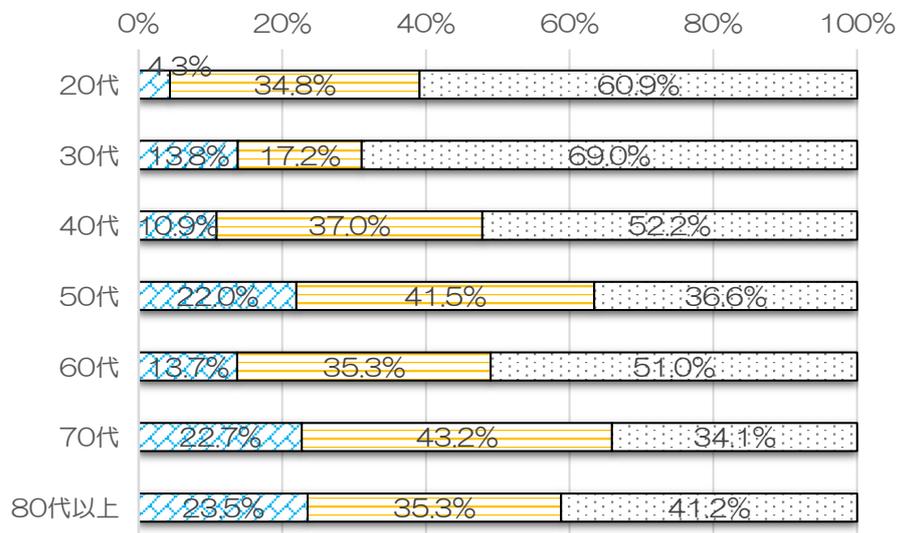
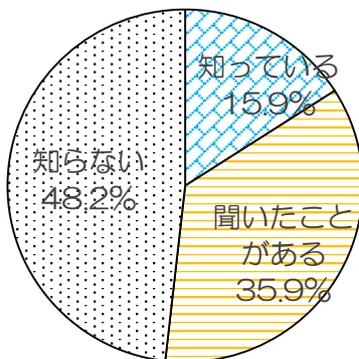
- ・必要だと思うが、やりたくない
- ・猫ではなく人間の問題である。子どもへの教育が必要である
- ・地域によって差があると思う。その差をどうゆめるか
- ・ふん尿対策は必要と思うが、去勢、餌やりはどうかと思う など

問 18 動物愛護及び管理に関する本市の事業についてお伺いします。(各項目いずれか1つを回答)

○ 長崎市動物の愛護及び管理に関する条例

【全般】

【年代別】



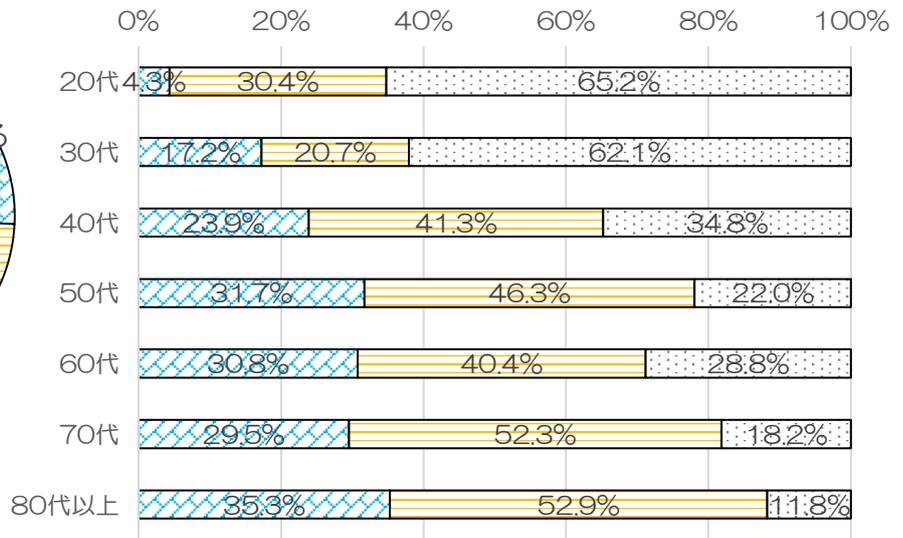
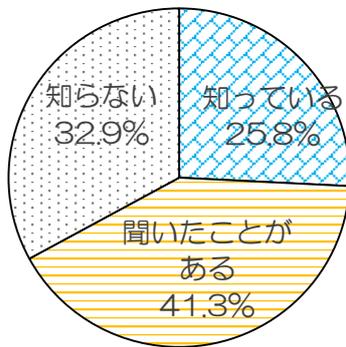
□知っている □聞いたことがある □知らない

約半数の方が条例の存在を知っていることが分かりました。20～30代は条例を知らない割合が高く、50代、70代及び80代以上で条例を知っている割合が高いことが分かりました。

○ まちねこ不妊化推進事業（野良猫の不妊去勢手術助成事業）

【全般】

【年代別】



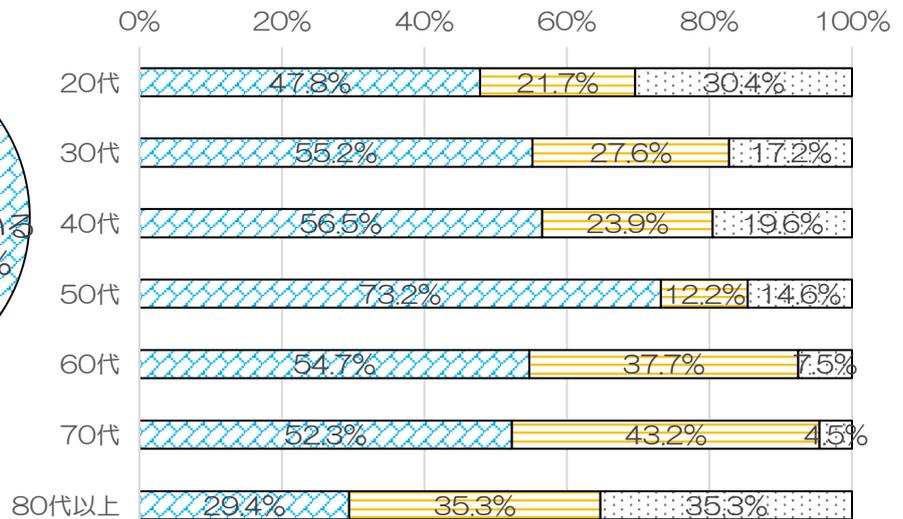
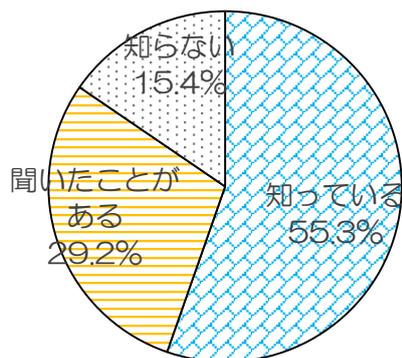
□知っている □聞いたことがある □知らない

全体では約 65%がこの事業の存在を知っていることが分かりました。年齢層が上がるにつれて「知っている」割合が高くなり、特に 50 代以上では 70%以上の方が、80 代以上の方においては、90%以上の方がこの事業の存在を知っていることが分かりました。

○ 犬猫の譲渡会

【全般】

【年代別】

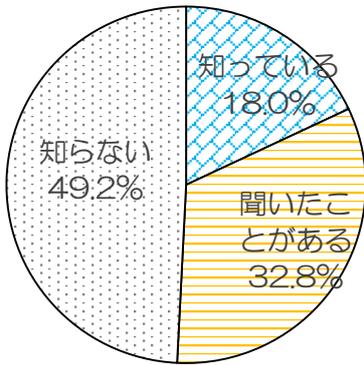


□知っている □聞いたことがある □知らない

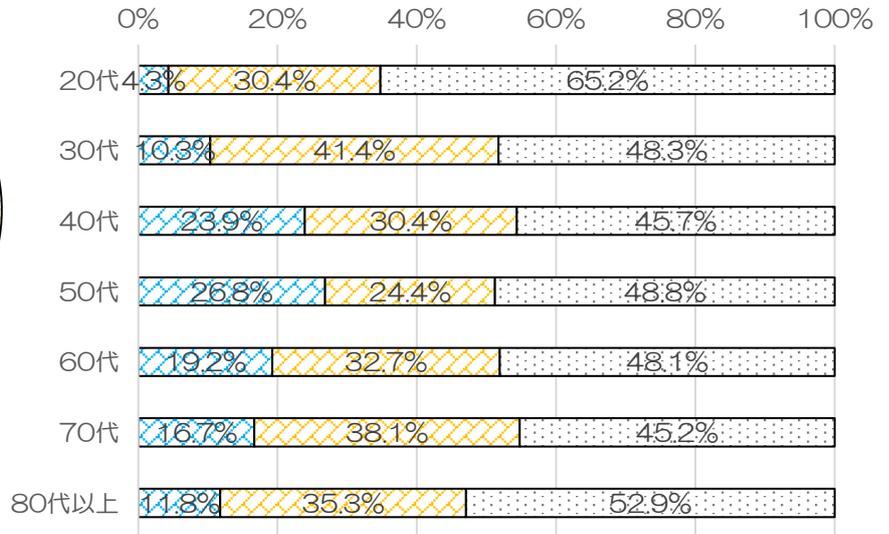
半数以上の方が譲渡会について知っていることが分かりました。「聞いたことがある」を含めると、80%以上となり、中でも 50 代の方の知っている割合が高いことが分かりました。

○ 犬のしつけ方教室

【全般】



【年代別】

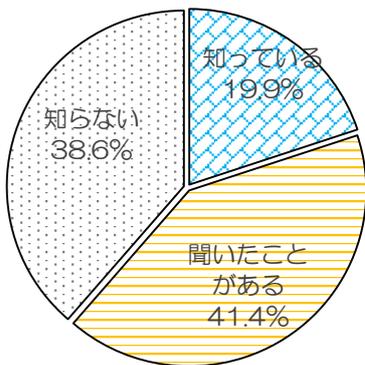


□知っている □聞いたことがある □知らない

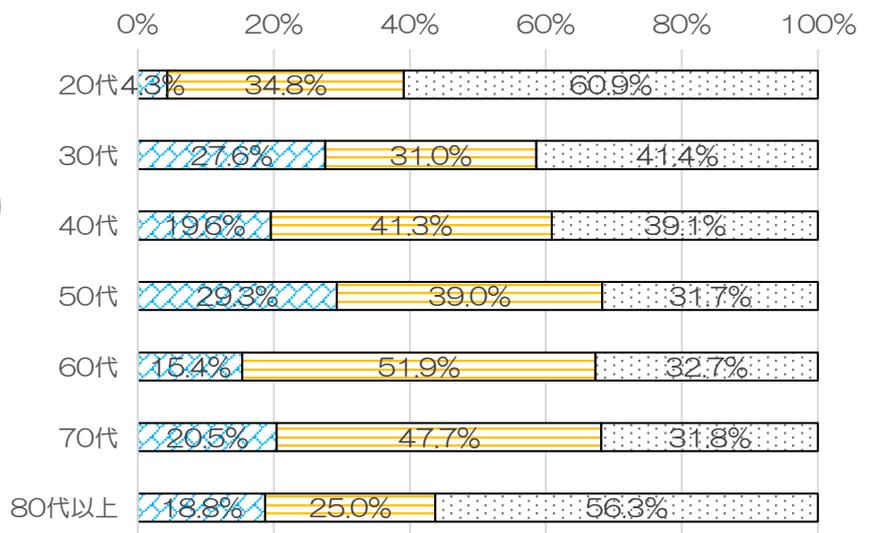
約半数の方が犬のしつけ方教室の存在について知っていることが分かりました。年代別に見ても、20代を除くと、ほぼ同様の傾向が見られることが分かりました。

○ 動物愛護週間行事（動物愛護フェスタ等）

【全般】



【年代別】

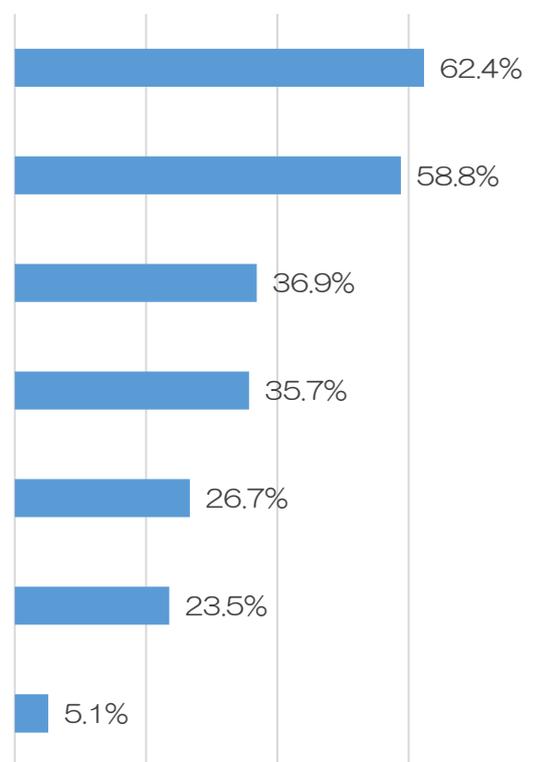


□知っている □聞いたことがある □知らない

約 60%の方が動物愛護週間行事の存在について知っていることが分かりました。年代別に見ると、20代や80代以上を除くと、ほぼ同様の傾向が見られることが分かりました。

問 19 動物愛護管理行政の中で、人と動物の共生社会の実現のために、今後より必要なことは何だと思えますか。(回答は3つまで)

選択肢	回答者数	割合
迷惑な飼い主への指導強化	159人	62.4%
動物の愛護や適正飼育の普及啓発	150人	58.8%
動物取扱業(ペットショップ、ブリーダー等)への指導強化	94人	36.9%
ペットへの所有者明示の促進	91人	35.7%
関係機関・団体(動物愛護団体等)との連携	68人	26.7%
犬や猫の譲渡の促進	60人	23.5%
その他	13人	5.1%
特になし	4人	1.6%



(回答者=255人 有効回答数 639)

※ 「その他」の意見

- ・野良猫に餌を与えている人への指導
- ・条件付きでの飼養許可
- ・飼ったからには最後まで飼うという契約書
- ・ペットと共に行ける場所を増やす
- ・動物虐待や殺処分をなくす条例、行政の積極的な介入、飼い主の資格審査  
など

問 20 本市の動物愛護管理行政について、ご要望やご意見がありましたら、記入をお願いします。(自由記載)

⇒ 81名の方からご要望やご意見をいただきました。下記に一部を紹介いたします。

(地域猫活動や餌やりのルールについて)

- ・令和4年7月1日から、長崎市動物の愛護及び管理に関する条例の施行の周知をお願いします。特に飼い主のいない猫に餌やりをするときのルールの周知を特

をお願いします。

- 地域猫活動について知りませんでした。近所に野良猫が多く、ふん尿や鳴き声で困っているので進めてほしい。
- 不妊化を行った後のケアが進んでいけば良いなと思う。一般の方への譲渡、野良の寝床や衛生状態の管理を行う事で観光の方や地域の方が触れ合いやすい環境作りを推進する。
- 私は猫が好きですが、野良猫が増えると大変なので活動をして下さっている方には感謝です。ただそういう活動をしている人と知らない方もいますので、活動中はわかるようなものを身につけたらいいと思います。

(野良猫への餌やりについて)

- 特に猫を飼っている家について、市は犬のように鑑札制度を導入すべきと思っている。隣人の庭にフンをするのを多く聞くこともあり。野良猫の温床となる原因につながっていると思う。
- 市が発行している野良猫については紙に食べ物を与えないとありますが、残酷だと思っている。不妊化をもっと進めて、生きているかぎり共存していきたい。

(殺処分について)

- 良く知らないのですが、殺処分の数が多いと聞くので、少しでも解決する方法が見つかればと思います。
- かわいそうな猫達をこれ以上増やさないようにしてもらいたいです。

(ペットの飼い方について)

- 猫の放し飼いは絶対になくすべきです。庭に入り込み、ふんや尿をして枯れてしまいますので、罰則(罰金・個人指導)を設定してもらいたい。
- 飼い主としてのマナーが悪かったり、猫や野生動物への餌やりなどする方は、高齢者が多い。大変だとは思いますが、地道に普及啓発していくしかないと思います。小中学校でも教育してはどうでしょうか。
- 最近町中でねずみをよく見かけるようになりました。ペットを飼育していない人が公園やいろんな所に置き餌をしているからかと思っています。注意したくても怖くてできません。啓発・指導をお願いしたいです。
- 犬や猫の姿を見るとホッとします。しかし、野放しは困ります。今はうまくやったださっているように感じています。
- 犬猫を好きな人、嫌いな人ありで行政も大変だと思います。個人としては長崎には猫がいないのは考えられません。増えすぎない対策で良いと思います。
- ペットへのマイクロチップの義務化を進めてほしいです。海外では義務化されているので日本でも行ってほしいです。そうする事で、飼い主の最後まで育てると

いう責任の意識も高まる。迷子になったペットも早く飼い主が判明するメリットがあると思います。

(まちねこ不妊化推進事業について)

- 野良猫の不妊去勢手術を 50 匹以上してきましたが、行政の補助金を増やしてほしい。個人でするのも限界がある。
- まちねこの不妊化取組みの強化及び里親さがしが必要ではないでしょうか。
- まちねこの不妊化推進事業は、すばらしいと思います。ペットをいらなくなって捨てる人とかには、強く指導するべきだと思います。そのためにも所有者明示を促進してほしいです。

(広報や周知について)

- どこで紹介（PR）されてるのかわからないので、ほとんど回答できなかった。
- 長崎市動物の愛護及び管理に関する条例を知りました。ますます手順よく考えて皆で勉強してゆきましょう。庭の花壇は糞と尿が沢山です。皆でしっかり取り組みましょう。
- 街なかで、野良犬猫やフンの放置も少なくなり、飼い主のマナーもよくなっていると思います。行政の指導や任意の動物愛護団体の努力の賜物ではないでしょうか。長崎は、尾曲猫が有名です。大浦かいわい・唐人屋敷・平和公園周辺でも観光客の方に人気です。人と動物の共生社会の実現は大事なことです。動物愛護管理の普及啓発を進めてください。
- 動物管理センターに収容されている犬や、猫の避妊手術助成、保護活動をしている団体をもっと取り上げて、市民にペットとの共生を考える機会をより作ってほしい。
- 市民が能動的に情報を得ようと努力しなければ何の情報も得られないし市が何をしてこの現状にどんな業績をあげているのかもわからない。長崎は殺処分が非常に多いようです。全市民の意識を高めるため色々な媒体を通して積極的に何度でも長崎市のほうから工夫して伝えるべきです。
- 個人の愛護団体が頑張っているのはあちこちのポスターで見かけます。長崎市も本気で取り組んでほしいと思います。
- 捨猫、捨犬を見つけた時の連絡先を周知してほしい。警察等では対処してもらえない為。

(多頭飼育について)

- 動物愛護管理センターの皆さんが、一生懸命頑張って保護していただき感謝しています。長崎ねこの会、他のボランティアの方々をもう少し行政が助けることはできないでしょうか？個人でできることは限られています。多頭飼育への指導強化をお願いします。

- 多頭飼育がいまだに多く、管理できずにペットだけでなく周辺住民が困っているケースが散見される。厳正な対応が必要。

(その他)

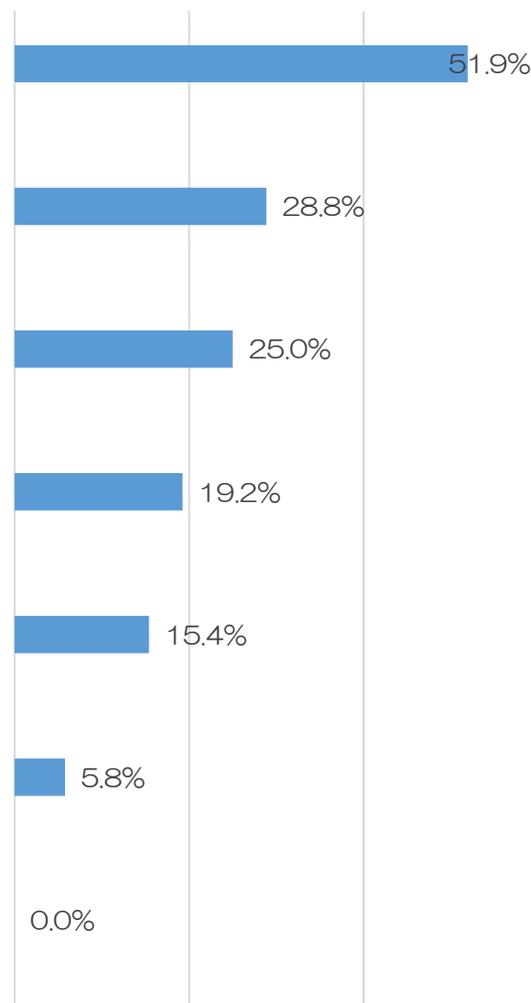
- 他自治体や海外の取り組みで良い所はどんどん取り入れてほしい。
- 自分達(人間)の迷惑にならない様にしか考えられていないように見えるので、もっと動物と過ごすメリットを前面に出した方が良いでしょう。
- 国際的な流れでもあるペットショップの廃止の問題は検討する必要がある。許認可を厳しくし、優良なペットショップのみに淘汰しながら里親制度の拡大を目指すべきだと思う。
- 取り組みや支援内容など HP や市の広報などに大きく載せてほしい。
- 今の動物愛護法では罟を使い捕獲することも違反に当たる可能性があり、素手で捕獲するには逃げられてしまう。また、1度住み着いたら何度追いかけても戻ってくる。条例等でこれの対策(罟、もしくはそれに準ずる捕獲する道具の使用)を行って欲しい。

## 【災害時のペットとの避難について】

問 21 「問 9」で「飼っている」と回答したかたに質問です。

ご自身が被災した際、ペットを連れて避難をするための、日ごろからどのような準備をしていますか。（複数回答可）

選択肢	回答者数	割合
ワクチン接種やノミダニ駆除等、ペットの健康管理をしている	27人	51.9%
特に準備はしていない	15人	28.8%
ケージ、トイレ用具、餌等のペット用避難用具を準備している	13人	25.0%
親戚宅やペットホテル等、一時預かり先を決定している又は検討している	10人	19.2%
ケージに慣れさせる等、ペットのしつけをしている	8人	15.4%
自宅からの避難ルートを確認している	3人	5.8%
その他	0人	0.0%



(回答者数=52人 有効回答数 76)

「ワクチン接種やノミダニ駆除等、ペットの健康管理をしている」が最も多く、「特に準備はしていない」、「ケージ、トイレ用具、餌等のペット用避難用具を準備している」の順に多いことが分かりました。

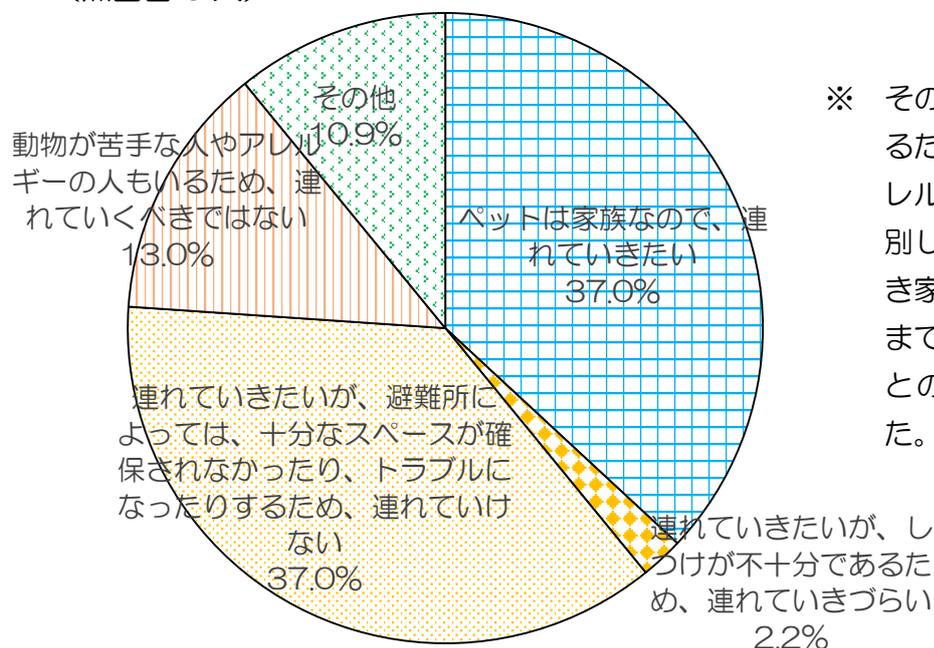
ペットを飼っている70%以上の方が、ペットを連れて避難するにあたり、日頃から何らかの準備をしていることが分かりました。

問 22 「問 9」で「飼っている」と回答したかたに質問です。

ペットと同行できる避難所の設置については、現在、対象施設等を検討中ですが、ご自身が被災した際、ペットを市指定の避難所に連れていくことについて、どう考えますか。(回答は最も当てはまるものを1つ回答)

選択肢	回答者数	割合
ペットは家族なので、連れていきたい	17人	37.0%
連れていきたいが、しつけが不十分であるため、連れていきづらい	1人	2.2%
連れていきたいが、避難所によっては、十分なスペースが確保されなかったり、トラブルになったりするため、連れていけない	17人	37.0%
動物が苦手な人やアレルギーの人がいるため、連れていくべきではない	6人	13.0%
その他	5人	10.9%
合計	46人	100.0%

(無回答6人)



※ その他には、「水槽に入れているため、連れていけない」「アレルギーの人は多いので、区別して設置が必要→長崎の空き家を活用すればよい」、「今まで考えたことがなかった」とのご意見が寄せられました。

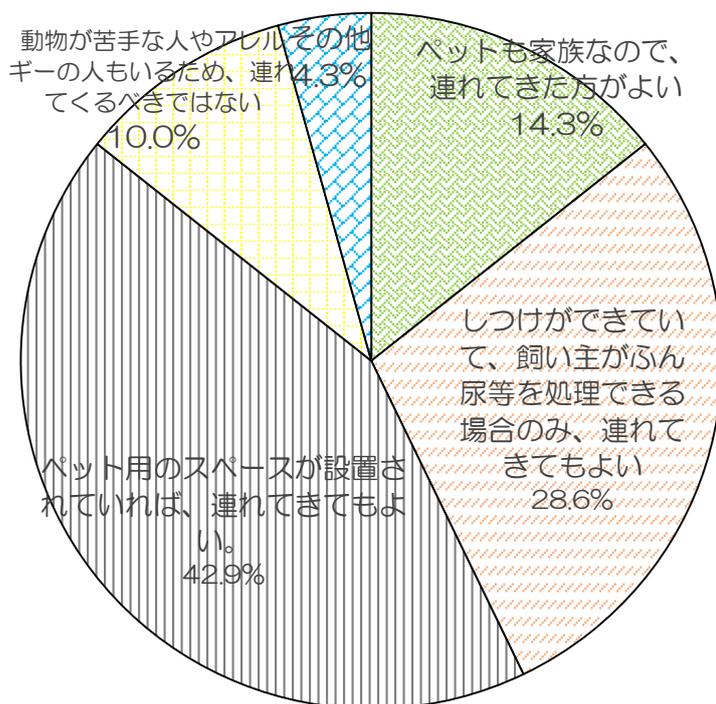
「連れていきたい」と「連れていきたいが、避難所によっては、十分なスペースが確保されなかったり、トラブルになったりするため、連れていけない」が最も高く、「動物が苦手な人等のいるため、連れていくべきではない」が次に多いことが分かりました。

ペットの飼い主の意見としては、ペットを避難所に連れて行くにあたり、他者に配慮する傾向があると考えられます。

問 23 「問 9」で「過去に飼っていたことがある」もしくは「飼っていない」と回答したかたに質問です。災害時、飼い主が避難所にペットを連れてくることについて、どう考えますか。（回答は最も当てはまるものを 1 つ回答）

選択肢	回答者数	割合
ペットも家族なので、連れてきた方がよい	10 人	14.3%
しつけができていて、飼い主がふん尿等処理できる場合のみ、連れてきてもよい	20 人	28.6%
ペット用のスペースが設置されていれば、連れてきてもよい。	30 人	42.9%
動物が苦手な人やアレルギーの人がいるため、連れてくるべきではない	7 人	10.0%
その他	3 人	4.3%
合計	70 人	100.0%

（無回答 71 人、回答者数 70 人（うち重複回答が 2 人））



※ その他には、「連れていきたいが、嫌な人もいると思うので、避難所へ飼い主も行かない」、「連れていくべきではないが、家族というの分かる。ペット用スペースを作っても、マナーを守らない人もいる。悩みます」、「条例を見ました。飼い主がしつけをした上で、ペット用の避難スペースを確保されることが必要であり、これは行政が行うことである」といったご意見が寄せられました。

「ペット用のスペースがあれば、連れてきてもよい」が最も多く、「しつけができていて、ふん尿等の処理ができれば、連れてきてもよい」が次に多いことが分かりました。

飼い主でない者の意見としては、連れてきてもよいという意見が多くを占めますが、ペット用のスペースがあったり、しつけ等がしっかりできていたりという条件を望む意見が多いことが分かりました。